研究論文

図画工作科における簡易木平版画を用いた版画指導法

稲田　大祐*

Methods of Teaching Printmaking in Art Education for Primary School using Simplified Wood Planography

Daisuke INADA

【要旨】
「簡易木平版画」は，でんぷん糊を用い親水性部を保ち，クレヨンなどで親油性部を得て版とし，シナ合板を版材とする新しい平版画技法である。幼児，小学生の子どもから大人までを対象に，安全，安価，容易に行える平版画表現として開発し，2014年に発表した。ワークショップでの実践から「簡易木平版画」には，クレヨンなどを用い直に版に描画をしたり，でんぷん糊で白抜きしたりするなどの基本的な技法から，高学年に適した発展的な技法内容までの各特徴を検証し，「絵に表す」内容と関連させて展開できることが分かった。さらに，現在の教科書に示された凸版や孔版に加え，「水と油は弾き合う」という性質を利用した平版の原理を体験的に知ることのできる版表現であることを確認した。本稿では，「簡易木平版画」を小学校図画工作科で指導の際，学習指導要領，発達段階を基に複数学年別に各種技法を整理し，指導内容や方法，配慮事項を検討した。

キーワード：図画工作，版画，指導法，平版，簡易木平版画

1.　はじめに―問題の所在―

図画工作科において，版表現は表現方法の一つとして扱われる指導内容であり，小学校学習指導要領解説図画工作編では「A 表現（2）絵や立体，工作」に含まれ，「版ならではの表現効果があるなどの特徴を持った造形活動のこと[1]」と示されている。版画の技法は，版の形状から大きく分けると凸版，凹版，孔版，平版の 4 種あるが，同指導要領解説の「内容の取扱いと指導上の配慮事項」の中で「児童や学校の実態に応じて，児童が工夫して楽しめる程度の版に表す経験[2]」ができるようすることと記されているのみで，学習指導要領では特に指導すべき具体的な版種は指定されていない。

しかし，〈表 1〉でまとめたように，平成 23-26 年度の教科書 3 社同様[3]，現在の平成 27 年度版の教科書 2 出版社[4]では，版画表現は，指や手による簡易なものを含めた凸版技法が中心で，高学年で多色刷りの木版画や，型紙版画などステンシルとよばれる孔版，こすり出しのような転写の技法が紹介されている〈表 1〉。凸版と孔版の技法は，教科書で扱われている技法や内容に限定すれば，特別な技能や用具を必要とせず，ローラー転がし，スタンピング，紙版，型紙版画など，身近で扱いやすく入手しやすいものを用いて，簡易な技法に限定して扱われている。

＊　いなだ　だいすけ　相模女子大学学芸学部子ども教育学科

その反面，凹版と平版は技法が複雑で，身近な材料を用いて版で表現することができないものとして認識されていることが考えられる。その理由として，実際に専門家の行う凹版や平版技法を行うとするならば，薬品を使用し，版画材料が安価ではなく，専門知識や特別な用具や設備が必要とされ，小学校でそのまま指導する内容としては適していない。

版に表す方法として，凸版や孔版だけでなく凹版や平版も，同様に簡易化された方法で，安全，安価に版に表現できるならば，小学校でも指導が可能であり，違う方法によるインクの付き方を楽しく子どもが理解する機会が生まれる。また，生活の中で多く接しているオフセット印刷による印刷物は，この平版の原理が利用されているにもかかわらず，インクが平面上の版にどのように付くのか，その仕組みが子どもばかりか大人にまで理解されていないのが現状である。

上記の理由から，平版画をより身近なものとして楽しめるように，新たに「簡易木平版画」技法を開発し，小学校図画工作での「版に表す」内容として平版画を新たに紹介する展開の可能性を検討してきた。「簡易木平版画」の技法は，子どもにとって安全な材料と道具を使用し，版材も安価であり，容易に描いた表現が版を通し紙に写し取ることができることを特徴とする。そのため現在教科書で取り上げられている凸版や孔版に加えて，「簡易木平版画」は平版の導入として版を用いて表現を楽しむ内容として有効であると検証した[5]。

さらに，平成26年の「簡易木平版画」技法の開発後，小学生，大学生，一般向け（美術作家を含む）を対象にワークショップなどで技法の普及と指導の方法について実践してきた[6]。その結果，容易な技法として設定していながらも，小学生対象に指導する際，低，中，高学年別に「簡易木平版画」を用いた技法各種を整理し，それぞれの指導内容と方法の組み合わせを検討する必要性が高まってきた。

その理由として，この「簡易木平版画」は，基本的には油脂分であるクレヨンやパスを用いたモダンテクニックを含めた描画表現が中心になり，「絵に表す」活動の一つとして取り扱われることから，描画の技能に応じた指導法と内容の適切な関連性が求められる。また，「簡易木平版画」では，シナ合板を用いた版に，油分を含んだもので描画するだけでなく，転写する，または親水性であるでんぷん糊でインクの付かない部分をつくるよう工夫するなど，多種多様な技法で展開することが期待できる。そのために，文部科学省国立教育政策研究所による『評価規準作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校 図画工作』にある評価の観点の趣旨[7]や小学校学習指導要領図画工作の目標に準拠し，発達段階に応じた基本的な用具や材料を用いて，複数学年別に内容を分類すると同時に，技能面での効果的な指導方法を検討する必要がある。

2. 研究の目的

本研究では，小学校において「簡易木平版画」を扱うことを前提に，本版種の持つ特徴を生かし効果的な版画指導方法を検討する。各技法の内容と学習指導要領の目標を踏まえ，低，中，高学年の複数学年にまとめて，それぞれの技法と指導の内容，指導配慮事項を考察し提案することを目的とする。

3. 研究の方法

はじめに平成27年度から新たに使用された図画工作教科書2社の版画に関する内容と技法を調査し，現在の版画に関する内容を分類し考察する。次に，「簡易木平版画」の各技法の特徴を検証し，各種技法を，難易度や使用する画材や道具に応じて分類し，技法別の活動内容を検討する。最後に，学習指導要領の内容と発達段階を考慮して，複数学年別に「簡易木平版画」を学ぶ際の子どもの活動を分類し，それぞれの指導内容，指導上の留意点，配慮点を検証する。

4. 図画工作科教科書内での版画に関する内容

〈表1〉に示したように，平成27年度からの教科書でも技法は凸版と孔版のほか，こすり出しの転写の技法のみで，凹版や平版は扱われていないことが分かる。スタンピングやローラー転がしなど凸版が低学年で多く取り上げられる理由は，子どもにとって身近な判子や手形遊びなどで原理を既に理解していることや，教師側にとって準備も容易であり，予備実験のように教師が事前に試作を繰り返さなくても，材料さえそろえばすぐに指導可能なためであると考えられる。

複数学年別に上巻下巻全6冊で構成される2社の教科書では，どの巻にも必ず「版に表す」内容は取り上げられているが，低学年では，ローラーやスタンピング，型紙版画が多く，高学年で木版による凸版が数多く扱われ，技法として似たような内容となっているのが分かる。

「版に表す」は，学習指導要領の目標，内容に準拠し発達段階を考慮され，さらに学習指導要領の「内容の取扱いと指導上の配慮事項」にある「児童が工夫して楽しめる程度の版に表す経験[8]」ができることである限り，「簡易木平版画」も小学校で展開できる版体験の内容として有意義であると考えられる[9]。

さらに，同配慮事項（2）では「コピー機を利用して何枚も同じものをつくってそれを材料にするなども版に表す経験の一つと考えることができる[10]」と記されており，版種に関して広義に解釈できる。また「版に表す」定義として「版ならではの表現効果があるなどの特徴[11]」という点においても，同じインクの付き方の繰り返しだけでなく，新たな版による表現として，「簡易木平版画」を複数学年に

発行者 発行年 月	使用 学年	教科書名	掲載 頁	題材名・タイトル	版表現に関連した内容	技法による 版種
日本児童美術研究会 日本文教出版 平成 27 年 1 月発行	1・2 年	『ずがこうさく 1・2　上 たのしいな　おもしろいな』	6-7	「たのしい かたちや いろの せかい」	鑑賞内容として　型紙（ステンシル），ローラー	孔版，凸版
			22-23	「コロコロ ぺったん シャカシャカ」	スタンピングローラー，手の型押し，こすり出し（フロッタージュ）	凸版，転写
			48-49	「うつしかた かたちから」	スタンピング，ローラー，こすり出し（フロッタージュ）	凸版，転写
			54	「ためしてみよう」	クレヨン・パスを用いた型紙（ステンシル），スタンピング	孔版，凸版
		『ずがこうさく 1・2　下 たのしいな おもしろいな』	表紙	「お花ばたけ」表紙絵	型紙（ステンシル），ローラー	凸版，孔版
			24-25	「とろとろえのぐで かく」	手の型押し	凸版
			30-31	「見て 見て おはなし」	スタンピング，ローラー，紙版	凸版
			46-47	「たのしく うつして」	型紙（ステンシル），ローラー，スタンピング，紙版	凸版
			56	「うつしかたの くふう」	型紙（ステンシル）と紙版の技法解説	孔版，凸版
	3・4 年	『図画工作 3・4　上 見つけたよ　ためしたよ』	32-33	「大すきな ものがたり」	スタンピング	凸版
			48-49	「いろいろ うつして」	コラグラフ，スチレン版，型紙（ステンシル），ローラー 絵の具，パスによる彩色とペンによる加筆	凸版，孔版
		『図画工作 3・4　下 見つけたよ　ためしたよ』	表紙	「小さな種からの地球の実」表紙絵	コラグラフに彩色，凸版によるタイトル文字	凸版
			8-9	「絵の具で ゆめもよう」	スタンピング，型紙（ステンシル），ビー玉ころがし，混合技法	凸版，孔版
			46-47	「ほって すって 見つけて」	単色木版，二色木版，切った版の構成，単色木版画にクレヨンでの彩色	凸版
			52-53	「使ってみよう ざいりょうと用具 木はん画の用具とぎほう」	木版画の材料と用具，使い方など技法解説	凸版
	5・6 年	『図画工作 5・6　上 見つめて　広げて』	44-45	「刷り重ねて表そう」	一版多色木版，ほり進み木版	凸版
			54	「はん画の種類と表し方」	ほり進み版画，一版多色版の技法解説	凸版
		『図画工作 5・6　下 見つめて　広げて』	42-43	「版から広がる世界」	ほり進み木版，木版画にうら彩色，ほり進みスチレン版	凸版
日本造形教育研究会 開隆堂出版 平成 27 年 2 月発行	1・2 年	『ずがこうさく 1・2　上 わくわくするね』	22	「のばして ぺったん」	粘土に型押し（エンボス）	凸版
			23	「てで さわって かくの きもちいい！」	指や手の型押し	凸版
			28-29	「うつして あそぼう」	スタンピング，こすり出し	凸版，転写
			41	「きょうしつを　とびだして」	雪に型押し（エンボス）	凸版
		『ずがこうさく 1・2　下 みんなおいでよ』	表紙	「どうぶつ園」	型紙（ステンシル）	孔版
			4	「小さな びじゅつかん」	鑑賞内容として 木版手彩色	凸版
			23	「ぼかしあそびで」	クレヨン・パスなどによる型紙（ステンシル）	孔版
			34-35	「うつして 見つけて」	型紙（ステンシル），ローラー	凸版，孔版
			43	「クレヨンや パスで かいてみよう」	クレヨン・パスなどによる型紙（ステンシル）の技法解説	孔版
	3・4 年	『図画工作　3・4　上 できたらいいな』	30-31	「でこぼこもようの なかまたち」	コラグラフ	凸版
		『図画工作　3・4　下 思いをこめて』	4	「小さな美じゅつ館」	鑑賞内容として　木版多色刷	凸版
			7-8	「ゆめをかたちに」	鑑賞内容として　版画家と作品紹介　木版裏手彩色など， 児童作品：木版画	凸版
			8-9	「絵の具で遊んで　自分色紙」	スタンピング，ローラー，デカルコマニー，ビー玉転がし，型紙（ステンシル）	凸版，孔版
			36-37	「ほると出てくる不思議な花」	多色背景に木版刷り	凸版
			40	「みんなのギャラリー」	伝統工芸江戸小紋の型紹介　型紙（ステンシル）	孔版
			42	「パレットコーナー」	型紙（ステンシル）の技法紹介	孔版
	5・6 年	『図画工作　5・6　上 心をつないで』	表紙	「かたつむりの家族」	ほり進み版画	凸版
			3	「小さな美術館」	鑑賞内容として　児童作品：ローラー	凸版
			14-15	「めざせ，ローラーの達人」	ローラー，型紙（ステンシル）	凸版，孔版
			16-17	「かくれんぼさんを さがせ」	こすり出し	転写
			32-34	「色を重ねて，ゆめを広げて」	ほり進み版画	凸版
		『図画工作　5・6　下 ゆめを広げて』	2-3	「小さな美術館」	鑑賞内容として　伝統木版（浮世絵）	孔版，凸版
			35-37	「写して見つけたわたしの世界」	スチレン版によるほり進み版画，スチレンを切った版の構成，モノプリント	凸版

表 1　H27 年発行の図画工作科教科書における版表現に関連した内容と題材

応じて指導内容，方法を検討する意義がある。

5. 「簡易木平版画」の技法

「簡易木平版画」は，版面上に物理的に凹凸を施すことなく，平らな版面上で水と油は反発する性質によって，インクの付く部分と付かない部分を分ける平版画の原理を利用している。従来の商業印刷技術として使用されるアルミ板ではなく，4mm 厚のシナ合板を使用して，子どもが安全，安価，容易に平版画を楽しみ，仕組みを理解できるよう開発された技法である。クレヨンなどの油脂分を含む描画材でシナ合板に直接描画して版づくりを行えるだけでなく，子どもの発達段階を考慮して「簡易木平版画」の技法は，多様に考えられる。

よって本章では，「簡易木平版画」の基本的な特徴を述べ，小学校図画工作の内容と関連した技法について検証する。

5.1 「簡易木平版画」の特徴

市販の「プライウッドグラフ[12]」という製品を用いて行うラワン合板を版材としソリッドマーカーや解き墨を用いて描画する「木版リトグラフ[13]」と呼ばれる技法とは異なる。シナ合板を版とし，平面上で親油性部をつくるための油分を含むクレヨンやパス，親水性部を保つでんぷん糊を使用することが「簡易木平版画」の特徴の一つである。

二つ目の特徴として，安価，安全，容易にできることが特徴である[14]。今までの平版では商業印刷だけでなく版画専門家が創作する版画製作でもアルミ板を使用するのが一般的である。「簡易木平版画」は，素材の扱いやすさや価格，また，使用する画材から考慮しても，幼児や小学生に適している。凸版，孔版に加え新たな版種として，版表現を楽しみ理解するための平版画の導入となり展開できる可能性がある[15]。使用画材，道具については，図画工作室で使用するでんぷん糊，クレヨン・パス，木版凸版でも使用するシナ合板が主な材料で，特別な既製品や版画材セットなどの購入の必要はない。

三つ目として，「簡易木平版画」の技法には，クレヨンによる描画表現がそのまま版になり，紙に写し取ることのできるごく簡単な技法である。描画表現とともに他版種の技法と組み合わせて，より複雑な表現を試みることのできる技法でもあり，対象を幼児から小学校高学年まで幅広く設定できる。

四つ目として，インクの付かない親水性部を保つために使用する液状のでんぷん糊を利用して，白抜きの部分をつくることができる。木板やスチレン板などの凸版ならば彫刻刀で彫るなど物理的に凹ませる必要があるが，でんぷん糊を筆や型紙，スポンジ，霧吹きなどを利用して塗布し白抜きを表現できる。

五つ目として，凸版は板などを彫ってしまった場合は後戻り，つまり凹部を凸部にすることは難しいが，「簡易木平版画」は，描画部の削除，加筆という修正ができる。

六つ目の特徴として，一見欠点とも考えられる「版の安定性のなさ」である。専門科用の完成された技法と違い，安全，安価，容易にするために，特別な薬品を使用せず，図画工作室にあるような身近なもので版を楽しめる一方，版の安定性は低い。つまり，枚数を刷るにしたがって親水性部のでんぷん糊が取れて，少しずつインクを引き付けはじめる。

しかし，子どもの作品は，版画専門家のように販売することを目的に多数枚刷る必要はなく，版による表現を楽しむことを目的とするため，刷る度の変化，版の不安定さの問題点よりも，多様な結果を得られることとして，この点を利点と考えたい。

以上，子どもへの指導を展開する点において「簡易木平版画」の特徴を考察した。

5.2 「簡易木平版画」の技法分類と解説

「簡易木平版画」の技法を 11 種に分類し，版づくりで使用する画材，用具，関連する版技法，図画工作科の目標や内容として考えられるものを〈表 2〉にまとめた。以下図画工作科で扱う目標と内容に関連して技法の詳細を記す。

(1) 油脂画材による直接描画（クレヨン・パスなど）

クレヨン・パスなど油脂分を含む描画材で，シナ合板面に直に描く。刷られた版画は描いたものと左右反転になるなど基本的な版画ならではの特徴がある。背景には淡く木目が刷り取られることから，画面全体に描きこむ必要がなく，木目の効果を考えて表し方を工夫できる。また，シナ合板が持つ特徴的な木目から形を発想することもできる。複数枚刷ったものをコラージュして再構成したり，刷り重ねたりして刷る，色紙に刷るなど，一枚の絵で表現するよりも表現の過程で多様な試みをすることができる。

(2) 指こすり（クレヨンなどを用いたステンシル）

型紙を用いて，クレヨン・パスなどが版に付く，

技法名	基本使用画材，用具	関連する版技法など	技法別の活動内容
⑴ 油脂画材による直接描画	油性クレヨン・パスなど	該当なし	材料としてのシナ合板の個々に見られる木目の特徴を利用して発想する。
⑵ 指こすり（クレヨンなどを用いたステンシル）	油性クレヨン・パスなど，型紙など，はさみ	孔版（型紙など）	基本的な形は，型紙などを用いて表し，線や形で自分なりのイメージを加える。
⑶ 白抜き（でんぷん糊を用いた描画）	でんぷん糊，筆など	凸版（スタンピング，手の型押し），孔版	白抜きになることを考えて，試しながら計画を立てる，表し方を考えて表す。
⑷ 白抜き（でんぷん糊を用いたステンシルなど）	でんぷん糊，スポンジ，型紙など，はさみ，筆，ブラシ，金網など	孔版（型紙など），モダンテクニック（スパッタリング）	型紙などを用いて表し，線や形で自分なりのイメージを白抜きの形として表す。
⑸ 間接手彩色（版を通した着彩）	水彩絵の具，筆など	バチック（弾き絵）	形や色，組み合わせを考えて彩色する。
⑹ カーボン紙による転写描画	カーボン紙，ボールペンなど	転写	カーボン紙の特徴を生かして，クレヨン・パス，型紙では表現できない細密な表し方を試みる。
⑺ 磨きだし白抜き（白抜き，修正，再加筆）	紙やすり，油性クレヨン・パス，でんぷん糊など	該当なし	表したいことに合わせて，表現を修正，加筆する。また，刷る過程において，修正ごとの表現を版に刷り残し，時間経過で変化する作品群を一つの作品とする。
⑻ 彫りによる白抜き（白抜き，修正，再加筆）	彫刻刀，油性クレヨン・パスなど	ほり進み版画	表現の過程における発想の変化に応じて修正する。
⑼ 混合技法（他技法との組み合わせ）	組み合わせる他技法に必要な画材・用具	凸版，孔版など	版のもつ特徴を生かして表現に適した方法，混合技法など，刷った紙にさらに様々な表現方法を組み合わせて表す。
⑽ 多色刷り	水性絵の具，筆，見当板など	版を刷り重ねる見当の管理	版を重ねるにつれて，新たな形と色がもたらすイメージの多様性に気づき，版の重ね方を変えて試行しながら，自分なりのイメージに近づけていく。
⑾ アセトンによるコピー転写（アセトンを使用のため子ども向きの技法ではない）	アセトン，レーザーコピーなど	コピー機	該当なし

表２「簡易木平版画」の版づくり関する技法各種と使用する画材，用具，関連する技能

付かないを分けて描画する方法で，孔版技法による描画である。型紙を使用すると，直接描画と比べて輪郭線が中心となるため，表現できる形は単純なものとなるが，低学年など筆圧調整によってクレヨン・パスなどによる濃淡の調子が表しにくい場合でも，指こすりによって様々な調子を表すことができる。

(3)　白抜き（でんぷん糊による描画）

でんぷん糊が親水性であることから，油性インクを引き付けず，塗布部分が白抜きになる技法である。水と油がお互い弾き合う性質を理解しやすい。でんぷん糊を絵の具のように水で薄め，筆などで版に直接描画する。透明であるでんぷん糊で描画中，見にくい場合は，糊に淡い色の水性絵の具を混ぜてもよい。油性インクを盛る際は，セルローススポンジを用い，版面を水で湿らせるため，水溶性であるでんぷん糊塗布部分は，枚数を刷るにしたがって，徐々に油性インクを引き付けるようになる。つまり，当初の白抜き部分は，刷る度につぶれていく。低学年には，でんぷん糊をスタンピング技法で塗布することや指などで直接版面に付けることならば容易にできる。スタンプ遊びや手の型押しの延長として，また，身近な素材の断面から版になりやすそうな材料を見つけるなど，でんぷん糊を版面に直に付ける。

(4)　白抜き（でんぷん糊によるステンシルなど）

型紙を利用し，スポンジなどを用いてでんぷん糊を版面上に塗布し，白抜き部分を作る技法である。孔版技法と組み合わせた版づくりである。筆と違い，スポンジなどで塗布することで，淡い白抜きも表現できることが特徴である。また，水で薄めた糊を利用して，落ち葉や，水に濡れてもよい身近なものなどを版面上に置き，糊を歯ブラシなどで霧状に吹きかけることで，糊が付いたところにインクが付きに

くくなり，陰影をインクの色として楽しめる。

(5)　間接手彩色（版への直接彩色）

各種方法で版に油性インクを盛りつけた後，水性絵の具で直に筆などで版上に着彩すると，水性絵の具は親水性部に多く留まる。次に，湿した紙で刷ると，油性インクと同時に着彩した水性色も刷り取ることができる。版を何枚か使用して色を得るよりも容易であるだけでなく，直接紙に彩色するよりも透明感のある淡い色味が現れ，さらなる版画の効果として表現できる。

(6)　カーボン紙による転写描画

クレヨンやパスに比べて，より細かい表現が可能である。鉛筆やボールペンの先でカーボン紙の油分をシナ合板に転写することができるので，細密描画に有効である。ただし，クレヨンやパスに比べて油脂分がカーボン紙は弱いので，インクの盛りを数回に分けて行うなど注意が必要である。

(7)　磨きだし（紙やすりによる白抜き，クレヨン・パスなどによる再加筆）

メゾチントのように，はじめからインクが全面に付く状態から，紙やすりで油脂部分を物理的に削り落とし，その部分にでんぷん糊を塗布することで，白抜きの部分を得ることができる。また，全体に親油性部分が多くなってしまった版を，紙やすりで木地まで磨きだし，でんぷん糊を施すことで再び白抜きにすることや，さらにクレヨンなどで描画することができる。紙やすりによる磨き出しを調整することで，中間濃度の調子をつくることもできる。

(8)　彫りによる白抜き，修正，クレヨン・パスなどによる再加筆

物理的に版面上を彫り，その部分を白抜きとして刷ることができる。彫刻刀で親油性部分，つまり，インクが付く箇所を彫り取り，改めてでんぷん糊を塗布すると，インクを寄せ付けない部分とすることができる。さらに，ほり進み版画のようにそれぞれの段階での版のイメージを刷り残して，版に手を加えながら変化させて展開することができる。

(9)　混合技法（他技法との組み合わせ）

予め，刷る紙にモノプリントや手彩色，ローラー転がしなどで形や色を施した後に重ねて刷る，刷ったものを思い通りに自由に切ってコラージュするなど，他技法と組み合わせる。基本的な「簡易木平版画」の技法と他の技法とを組み合わせて，様々試しながら多様な表現を総合的に生かし主題の表し方を得ることができる。

(10)　多色刷り

見当に合わせて，版を数枚使用し重ね刷りをする。表したい主題を考え，刷りの順番や重ね方など計画を立てて構成する必要がある。刷っている最中に版の裏側に汚れが付着するため，「簡易木平版画」の技法で行う場合は片面のみの使用が原則であるが，乾燥した板の裏面を紙やすりなどで磨けば，両面の使用が可能である。

(11)　アセトンによるコピー転写

レーザーコピーで紙に定着されたトナーを揮発性の高いアセトンで溶かしてシナ合板に転写することで，親油性部とする。強力な換気扇など装備している設備など以外では適していないので，小学校などでの本技法の展開は検討しない。

6.　複数学年別による「簡易木平版画」の指導内容

5 章では，「簡易木平版画」の各種技法と使用する用具，技法の難易度など考察した。本章では，小学校において指導する際，児童の発達段階を考慮し，複数学年別に「簡易木平版画」の技法や子どもの活動内容と指導上の留意事項を検討する。

6.1　「絵に表す」と「版に表す」の関連

クレヨンやパスなどによる「絵に表す」表現において，筆圧の強弱が画用紙上の濃淡となることを子どもは体験上理解する。一方，凸版や，孔版である型紙版画による「版に表す」表現は，主にインクが付くか，付かないかの二進法的な表現へと変換する必要がある。そのため手の型押し，スタンピングの体験を通して，インクの付き方は理解できても原画を基に製作する際，濃淡の表現が難しいため，版で刷られたものは，はじめに表したいと思っていた原画の印象とは大きく異なり，コントラストの強いものとなりがちである。その代わりとして，「簡易木平版画」は同様に版画技法の一つでありながら，直にシナ合板に描画でき，描いた表現がそのまま紙に刷られて表されることから，「絵に表す」と「版に表す」という内容を同時に行うことができる。この

意味は，版画指導をより自然な流れで進めることができ，子どもが容易に版画を体験できる大きな特徴の一つといえよう。

さらに，油性インクやでんぷん糊を使用した初歩的凸版技法のスタンピング，ローラー転がし，孔版である型紙版画を段階的に組み合わせて表現できるなど，低学年から高学年まで技法別，指導内容を変えながら展開できる可能性がある。

水と油は弾き合うという性質は，一見すると子どもには理解し難いようだが，クレヨンやパスなど油脂分を含む描画材で描いた上から水性絵の具を塗ると絵の具が弾かれるというバチック（弾き絵）の技法は，この平版画を理解する一つの道筋上にある。バチックを経験した後に行うとより，水と油が弾き合うことを体験的に理解しやすい。

6.2　複数学年別「簡易木平版画」の指導内容と指導上の配慮事項

低，中，高の複数学年別による指導の展開案として，版に表す際の子どもの活動と指導の留意や配慮する点を〈表 3〉にまとめた。以下，表に記した内容全体に共通する指導に関する考察である。

(1)　各複数学年別技法

学習指導要領の内容と目的，発達段階を考慮し，5 章で考察した「簡易木平版画」の技法を分類したが，各複数学年欄内の技法は，表中に示された学年のみが対象ではなく，低学年から高学年に向けてそれまでの技法を，発達や学びの経験に応じて発展させられると考えている。例えば，低学年ではクレヨンやパスなどの描画材による描画によって版をつくるが，高学年ではさらに描画する技能を生かして，表し方を工夫してかき込むなど発展させることができる。

(2)　版画指導の重点事項

指導上の配慮事項として学習指導要領解説に「児童が無理のない範囲で経験できるようにするとともに，児童が受け身で活動が終わることのないよう配慮する必要がある[16]」と記されているように，「簡易木平版画」を行う際も，技術指導ではなく，版による表現方法の一つとして楽しみながら取り組めるよう十分留意しなくてはならない。

例えば，「版に表す」活動において，「きれいに刷る」「正確に行う」「計画通り行う」といった規律的で，楽しみを抑制するような注意を指導の中に含めないよう配慮することが大切である。時に，児童が雑に作業をしたり，いい加減なインクの付け方などをしたり，気まぐれに行ってみたりなどすることも予想される。

しかし，順序を考えて計画的に行うこと，準備を整えてから行うこと，丁寧に行うことなどをことさら強調せず，思い通りにできずに失敗してもよいよう，自由に試すことができるような環境の配慮が必要である。失敗と思われた中から意外な表現を発見できる機会を持つことや，偶然にできた形や色の面白さに気づくことを通して，次にそれを自分の表し方として利用できるよう発展させていけるような指導に重点を置くこととしたい。そのためには，十分な時間を用意し，画一的なサイズや，形，種類にならない多様な材料と用具各種に加えて，上記のような試行を児童が自由にできる余裕を持てるような教師側の意識の基に指導することが求められる。

(3)　版画の特徴：複数枚刷ることができる点

〈表 3〉中学年の指導上の留意・配慮事項の欄に記した内容は，版画指導全体にいえることであり，表したいことを考えて，適した表現方法を試し，工夫しながら，児童一人一人の思いに即した表現にたどりつけるとよい。一方，「版に表す」ことを同指導要領解説には，「同じものを何枚も写し取ることのできる，反転して写る，版ならではの表現効果[17]」とするが，指導要領解説の表現のままでは，版画の特徴について，同じものをつくるという狭い範囲での版画の特徴の解釈を教師側に与えてしまうことを危惧する。

その例の一つとして示されているのは，「コピー機を利用して何枚も同じものをつくってそれを材料にするなども版に表す経験の一つとして考えることができる[18]」と説明されている。同じものを複数枚刷る内容の意として，再構成することができることや，「版に表す」表現活動の枠を広げること，デジタル機器の利用など様々な意味が考えられる。しかし，小学校で行う「版に表す」活動は，版画を用いて「同じではないもの」を，つまり，版を用いて刷る毎に表し方を変えられることを特徴として強調する方がより必要である。一般的に版画の特徴は，油彩，水彩などの絵画作品と比べて，「何枚も複製ができる」ことを特徴として取り上げられることがあるが，学びの中ではその教育的価値が高いとは考えにくい。その理由として，同じものを得ることにこ

複数学年別	簡易木平版画　技法	子どもの活動	指導上の留意・配慮事項
低学年	・クレヨンやパスなどの描画材料による描画 ・でんぷん糊による白抜き（型紙や，自然物を利用した霧吹きなどモダンテクニックを含む）	・クレヨンやパスの滑らかさとかすれる具合から，様々な調子に気づく。 ・自然の模様である木目の形の面白さや美しさに気づき，その模様を基に形を思い付いて新しい発想をする。 ・手を使って表し方を工夫する。（はさみで紙を切って型紙をつくる。指で直にクレヨンをこすりつけたり，糊でかいたりする。） ・身近な自然物の中にある模様や形に興味をもち，模様から感じること，気付くことを話し合い，発想に結び付ける。 ・版として紙に写し取られた驚きや喜びを味わう。	・試行しながら材料に慣れるよう，十分に材料と時間の確保をする。（描画から刷りまで，時間がかかるものではないため，版に現れる表現を確かめながら何回か試すことができるようにする。材料とかかわりながら，発想を広げられるようにする。） ・他教科との関連として，落ち葉や枯れ枝，石などの自然物，人工物の底面の形などに興味を持てるよう，版に表し記録として残せるよう利用してもよい。 ・技術指導に偏ることないよう配慮する。偶然できた版による表現を，表したいことに利用するなど，現象から発想できるような例の示し方など工夫する必要がある。
中学年	低学年での技法を加え，発展させて ・他版種技法との組み合わせ ・間接手彩色	・クレヨンやパスで描画するだけでなく，自分なりに表し方を工夫して，経験を生かして間接的に版に付ける方法を工夫したり，他の版技法を組み合わせたりして，表したいことの表現に適した方法を試す。 ・版による表現について，友人のアイディアに共感したり，利用したり，紹介し合ったりする。 ・紙に刷られた形や色から，切ったり組み合わせたりして新たな作品を生み出す。 ・間接手彩色を刷る毎に変え，紙に写し取られる多様な表現と版という多種の結果が得られる手法を楽しむ。	・低学年までの描画や版による表現方法を組み合わせて，経験を生すことができるようにする。 ・単に版にして紙に写す行為を楽しむだけではなく，表したいことを考えながら，版の作り方を自分なりに工夫し，児童の作りたい思いに寄り添えるよう配慮する。そのため，表し方を多様に試すことができるよう，多種技法の表現例などを用意し，興味を持って取り組めるようにする。さらに紙の色や種類，インク色だけでなく，紙の形やサイズに可能な限り制限を設けず，一人一人の考えや表したいことを実現できるよう，子どもならではの発想を大事に指導する。
高学年	低，中学年における技法に加え，発展させて ・カーボン紙による転写 ・磨き出し ・彫りによる白抜き ・混合技法 ・多色刷り	・主題の表し方を，版にする順序や構成を考え，試しながら様々な表し方を工夫する。 ・色を変えて刷る，版を重ねてする，意図的にずらして刷る，何枚か刷ったものを再構成するなど，多様な表し方ができる版画ならではの特徴を生かして表し方を考えて表す。 ・友人の作品や美術版画作品などを鑑賞し，工夫した点や表し方の特徴，美しさ，表現の意図や気持ちをとらえ，作品に興味や関心を持ち，話し合う。	・高学年になるまでに得た版に表す経験を生かすだけでなく，児童が組み合わせたい表し方を行いやすくするために，材料，用具などを様々用意し，活用しやすいような柔軟な指導ができるようにする。 ・刷り上げた一枚のみを作品としてとらえるだけでなく，加筆修正しながらそれぞれの段階で刷り，その表現をまとめて，変化の過程の群として一つの作品ととらえてもよい。

表３　複数学年別による「簡易木平版画」指導上の子どもの活動と指導上の留意・配慮事項

だわるばかりに，技法や刷りの質に指導の注意が向いてしまうことや，表し方を試す活動から，複製する作業へと変わり，児童が楽しむ意欲がそがれてしまう可能性がある。したがって，複数枚刷れることは，「同じもの」ではなく，「同じではないもの」を多数，多様に試して刷る中で，自分の思いに合う表現に近づけられる点を特徴ととらえ指導する必要がある。

(4)　版画の特徴：刷りの過程により変容する作品

〈表 3〉の高学年の配慮事項に記したが，紙一枚の作品を一点としてとらえるのではなく，製作過程の中で変化していった状態を紙に刷って残し，イメージの変遷を一つの作品として示すことができることも版画の特徴といえる[19]。

高学年になると計画を立てて製作するが，はじめの表現から製作を進めるにしたがって，イメージが変わることもある。思いが変化した経緯を刷って残し，何枚かを組み合わせて一つのまとまりとして作品とするような表現も考えられる。

音楽の形式を例にすると，版上のイメージを少しずつ変化させて，紙に刷り残していく方法は，音楽の変奏曲のように旋律を変化させながら進行していく形式に似ている。変奏曲が英語でバリエーション（variations）といわれるように，版の表現の特徴として，版にある最初のイメージを主旋律として思いのままに変化させ，多様にイメージをつくることができ，それを一つのシリーズ作品，組作品とすることができるのも版画技法，表現の利点と考え，指導の幅を柔軟に広げられるとよい。

(5)　安全に関する事項

「簡易木平版画」は馬簾を用い，圧が届きやすい薄めの紙に刷ることができる。さらに圧を必要として図画工作室備品のプレス機を用いて刷るため，プレス機の適切な取扱いを含む安全指導をし，使用しない時の管理にも配慮することが必要である。

7.　まとめと今後の課題

「簡易木平版画」の特徴と技法をまとめ，指導の際の複数学年別展開方法についての提案と指導上の配慮事項ついて考察した。

我々の生活の中で手にする多くの商業印刷物は，オフセット印刷という平版による方法で刷られているにもかかわらず，小学校では平版画の原理を知る機会が全くないことは，現在の教科書で取り扱われる内容から分かった。本稿では，「簡易木平版画」の特徴を考え，小学校でも安全，安価，容易にできる点から，凸版，孔版に加えて児童が楽しく新たな版種を体験できる指導の展開を検討した。

版画専門家や商業を対象とした版の安定性や印刷の精度に注目するのではなく，子どもの表現の多様性を引き出し，試行の中から自分なりの表し方を見つけ出すこと，複雑な知識や準備も必要なく，材料と用具はそのほとんどが図画工作室にあるようなものを使用してできること，描画したものがそのまま版として表現できることに焦点を当てた。

その「簡易木平版画」を複数学年別で指導する際の展開では，学習指導要領と発達段階に対応して，子どもの活動と指導配慮事項を検討した。その結果，現在の学習指導要領の目標と内容を基に，「版に表す」経験を児童が無理のない範囲でできるよう，複数学年別の指導の展開の方法を見出すことができた。

今後の課題として，小学校教員向けの講習などにおいて「簡易木平版画」の普及に努め，さらに小学生向けワークショップや小学校での授業としての実践を通して，更なる実態に合わせた題材や指導計画，指導方法の精査を行っていきたい。

また，「簡易木平版画」の効果的な普及に向けて，講習において各種技法の詳細をサンプル作品とともに記したものが必要になるため，技法書としてまとめていく。

【注】

（1）　文部科学省（2008）『小学習指導要領解説　図画工作科編』日本文教出版，p. 62

（2）　前掲注（1），p. 61

（3）　稲田大祐（2013）「図画工作科における版表現の展開―時間によって変容する表現を捉える版画の有用性―」，『子ども教育研究』vol.　5，相模女子大学子ども教育学会紀要，pp. 24-25
開隆堂出版，東京書籍，日本文教出版の 3 出版社での版画に関する内容と版種調査結果による。

（4）　開隆堂出版，日本文教出版の 2 出版社

（5）　稲田大祐（2014）「図画工作科における平版画の展開―でんぷん糊による親水性を利用した子ども向け簡易木平版―」，『子ども教育研究』vol.　6，相模女子大学子ども教育学会紀要，pp. 18-19

（6） 簡易木平版画を用いたワークショップ，講習，授業は以下のとおりである。

・2014 年 3 月 29 日,「さがみ子どもアカデミーサイエンスアート教室“でんぷん糊のふしぎ”」対象　小学生 7 名ずつ　2 回, 相模女子大学にて。
・2014 年 7 月, 大学生，86 名, 相模女子大学にて。
・2014 年 12 月 14 日，子ども教育学会内ワークショップ，学会会員対象約 20 名，相模女子大学にて。
・2015 年 3 月 22 日―27 日，稲田醍伊祐個展会期中内　ワークショップ「トレタテハンガ」来場者向け対象約 30 名（美術作家を含む），東京神田木ノ葉画廊にて。
・2015 年 7 月, 大学生，89 名, 相模女子大学にて。
・2015 年 8 月 17 日,「夏休み MC　Forest　School 化学で遊ぼう」，小学生 22 名，丸の内三菱商事 MC フォレストにて。
・2015 年 8 月 29 日 ―30 日,“Wood　Planography Workshop”アーティスト対象 12 名　豪州ビクトリア州 Briagolong Freestone Print Studio にて。

（7） 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター（2011）『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料　小学校　図画工作］』教育出版，pp. 23-32
（8） 前掲注（1），p. 61
（9） 前掲注（5），pp. 18-19
（10） 前掲注（1），p. 62
（11） 前掲注（1），p. 62
（12） 新日本造形株式会社販売のプライウッドグラフ（合板リトグラフ）といい，片面整面剤塗布済のラワン合板を使用し，固形ペンキ（ソリッドマーカー）や解墨（油脂を含むリトグラフ用液体インク）で版面上にかき親油性部をつくる。小学校で使用するクレヨン・パスなどは使用できない。親水性部を保つために，SK 液（ガム液）を使用する。新日本造形株式会社（2015）『新日本造形　図工・美術カタログ』，p. 84
（13） 小作青史・佐竹邦子（2013）『版画技法入門講座　リトグラフを作ろう』阿部出版，pp. 40-47
（14） 前掲注（5），pp. 14-15
（15） 前掲注（5），pp. 18-19
（16） 前掲注（1），p. 62
（17） 前掲注（1），p. 62
（18） 前掲注（1），p. 62
（19） 前掲注（3），p. 33

【参考文献】

稲田大祐（2013）「図画工作科における版表現の展開―時間によって変容する表現をとらえる版画の有用性―」『子ども教育研究』 vol. 5　相模女子大学子ども教育学会紀要
稲田大祐（2014）「図画工作科における平版画の展開―でんぷん糊による親水性を利用した子ども向け簡易木平版―」『子ども教育研究』vol.　6　相模女子大学子ども教育学会紀要
小作青史・佐竹邦子（2013）『版画技法入門講座　リトグラフを作ろう』阿部出版
新日本造形株式会社（2015）『新日本造形図工・美術カタログ 2015』
日本児童美術研究会（2015）『ずがこうさく 1・2 上　たのしいな　おもしろいな』日本文教出版
日本児童美術研究会（2015）『ずがこうさく 1・2 下　たのしいな　おもしろいな』日本文教出版
日本児童美術研究会（2015）『図画工作 3.・4 上　見つけたよ　ためしたよ』日本文教出版
日本児童美術研究会（2015）『図画工作 3.・4 下　見つけたよ　ためしたよ』日本文教出版
日本児童美術研究会（2015）『図画工作 5.・6 上　見つめて　広げて』日本文教出版
日本児童美術研究会（2015）『図画工作 5.・6 下　見つめて　広げて』日本文教出版
日本造形教育研究会（2015）『ずがこうさく 1・2 上　わくわくするね』開隆堂出版
日本造形教育研究会（2015）『ずがこうさく 1・2 下　みんなおいでよ』開隆堂出版
日本造形教育研究会（2015）『図画工作 3・4 上　できたらいいな』開隆堂出版
日本造形教育研究会（2015）『図画工作 3・4 下　思いを込めて』開隆堂出版
日本造形教育研究会（2015）『図画工作 5・6 上　心をつないで』開隆堂出版
日本造形教育研究会（2015）『図画工作 5・6 下　ゆめを広げて』開隆堂出版
文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説　図画工作編』日本文教出版
文部科学省　国立教育政策研究所　教育課程研究センター（2011）『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料［小学校　図画工作］』教育出版